



女性が住みたくなるまちづくり

本橋 奈々子

(大仙市地域おこし協力隊)
(大仙市役所 移住定住促進課所属)

1 大仙市地域おこし協力隊を選んだ理由

私は、高校卒業まで大仙市で過ごし、関東の大学へ進学しました。大学卒業後は地元へ戻ることも考えていましたが、当時は関東にいながら秋田でどのように就職活動をすればよいのかわからず、周囲の就職活動の流れに身を任せる形で、そのまま関東の企業に就職し、結婚・出産・育児と、約20年にわたる関東での生活が続ききました。

忙しい毎日の中で、子どもたちは学校に通いながら、放課後や週末も習い事で過ごす日々。周囲も同じような生活を送っていたこともあり、それが「当たり前」と疑問を持つことはありませんでした。

そんな私たち家族に「移住」という選択肢が現れたのは、夫の仕事がきっかけでした。転職により、特定の場所にいなくてもできる働き方へと変わったのです。それまで「仕事がある場所に住むのが当然」と思っていた私たちにとって、大きな環境の変化でした。そのとき初めて、これまでの生活が少し窮屈に感じられるようになりました。子どもたちも、数年後には家を離れる年齢になります。「今しかないこの時間を、もっと家族と一緒に過ごしたい」そう思うようになりました。

私自身が秋田出身ということもあり、長期休暇には家族で帰省していました。自然に囲まれた環境で、子どもたちとのびのび過ごす心地よさを知っていたからこそ、「そういえば、子ども

がもっと小さい頃、田舎で子育てしたいと思っていたな」と、忘れていた気持ちを思い出しました。

子どもたちの今の生活を大きく変えることへの不安もあり、家族で何度も話し合いました。子どもを連れての移住は、決して簡単なものではありません。それでも、「この先、家族で過ごせる限られた時間のために、今動かなければならない」と思い、移住を決断しました。

秋田での仕事を探す中で、「せっかく地元に戻るなら、地元のためになる仕事がしたい」と考えていたときに出会ったのが、大仙市の地域おこし協力隊の募集でした。

地元のために活動し、多くの人と関わりながら地域に貢献したい。そして、その先も地元で根ざして続けていける仕事を見つけられたらと、そんな思いで応募しました。現在は、多くの方々と関わりながら、日々学びを重ねています。地域の中に入り、人と人をつなぐ役割を担えることに、大きなやりがいを感じています。



(活動中に会った秋田犬とツーショット)

2 活動ミッション

私は移住定住促進課に所属し、移住・定住に関する業務全般に携わっています。

オーダーメイド型移住体験プランの企画・実施をはじめ、移住定住に向けたPR活動、移住者同士や地域とのつながりをつくる交流会の開催などを行っています。その中で、私自身のこれまでの経験を生かして取り組んでいるのが、「女性が住みたくなるまちづくり」です。

結婚・出産・育児を他県で経験し、その後、家族で大仙市へ移住したことで、外から見た秋田の姿と、実際に暮らして感じる秋田の両方を知る立場になりました。暮らしやすさを感じる場面がある一方で、不安や戸惑いを感じることもあり、そうした実感は、女性や子育て世代が移住を考える際の視点と重なる部分が多いと感じています。

「女性が住みたいと思えるまち」とは、どのようなまちなのか。その答えは一つではなく、年代やライフステージによっても異なります。だからこそ、さまざまな立場の女性の声に耳を傾け、その思いや気づきを伝えていくことが重要だと考えています。



(女性同士の交流会を企画)

3 女性のための交流会を開催

協力隊として着任してからの新しい試みとして、「女性が住みたいまちづくり」というミッションのもと、忙しい毎日の中で少し立ち止まり、自分の心と体に向き合う時間を持てるよう、女性を対象にした交流会を企画しました。

「Park Yoga～ととのう朝じかん～」と題して、大仙市太田支所地域活性化推進室と協力し、「おいでよ！横沢公園Summer Marche」のイベント内で行いました。

青空の下、朝のさわやかな空気を感じながら体を伸ばし、深呼吸をして心と体をリセット。ヨガのあとは、さっぱりスイーツとクラフトコーラを囲んで、リラックスした雰囲気の中で交流を楽しみました。

「女性が住みたくなるまちってどんなまち？」をテーマに、仕事や子育て、暮らし方などについて意見を交わし、参加者それぞれが自分の想いを言葉にして共有しました。今後も、誰もが自分らしくいきいきと過ごせるきっかけづくりを続けていきたいです。



(公園でヨガのイベントを実施)

4 大仙市で輝く女性インタビュー

協力隊に着任してからこれまで、12人の女性にインタビューしてきました。

これは大仙市内で活躍する女性たちの活動を

知ってもらいたい、そして活動を広げるお手伝いがしたいという思いからです。

そんな皆さんの多くは、地域のため、誰かのためという思いを持って活動しています。大仙市には、そんな元気で生き生きと活躍する方がたくさんいることをぜひ知ってもらいたいです。これからも女性の活動を紹介しながら、その輪がさらに広がるよう応援していきたいと思っています。



(大阪から移住された熊谷さん
オリジナルキャラクターを制作して秋田を応援)

5 親子で楽しむレジンアクセサリー体験

親子で一緒にものづくりを楽しんでもらいたいという思いから、さまざまなイベントでレジンアクセサリーのワークショップを開催しました。

普段なかなかできない体験をしてもらえるよう、ビーズやチャームなど、さまざまなパーツを準備して実施しました。子どもたちはキラキラした素材を前に目を輝かせ、自分だけのオリジナルキーホルダーやヘアピンづくりに夢中になっていました。ママだけでなく、パパも一緒に制作を楽しむ姿も見られ、親子で相談しながらデザインを考える微笑ましい光景が広がりました。



(レジンアクセサリーワークショップ
開催の様子)

6 大仙市の魅力を関東圏へ発信

関東圏から移住に関心のある女性たちを募集し、大仙市の自然や食、文化を体験してもらう「魅力体験女子ツアー」を開催し、私はツアーのアテンドを担当しました。



(大仙市の絶景スポットをご案内)

ツアーに同行したことで、地域のあたたかさや人の優しさに触れ、私自身も改めて大仙市の魅力を感じ、「移住して本当によかった」と実感しました。また、エフエム東京のラジオ番組にも出演し、ツアーの様子や大仙市の魅力を発信しました。こうした取り組みが、大仙市を知るきっかけにつながればうれしいです。